

2024年度第1回明石市文化財保護審議会次第

日時：2024年（令和6年）9月27日（金） 13時30分～15時30分

場所：明石市立文化博物館 2階大会議室

1. 開会

2. 議事

(1) 指定文化財候補物件について（審議）

・延命寺の仏像

(2) 明石市文化財保存活用地域計画事業について（報告）

・2024年度の事業予定

（文化財の看板の設置、源氏物語プロジェクト、文化財ウォーク）

(3) 魚住文化財収蔵庫の展示公開について（報告）

(4) その他

3. 閉会

(1)指定文化財候補物件について(審議)

えんめいじ ぶつぞう
延命寺の仏像 1躯

所在 明石市魚住町金ヶ崎 延命寺

由来

延命寺は奈良時代の創建と伝わる寺院である。長坂寺(現在の遍照寺)の塔頭寺院として建立された。もとは、現在の魚住町錦が丘にあり、南北朝の戦乱で長坂寺とともに焼失し、絵馬堂のあった現在の場所に再建された。その後、天正7年(1579)の羽柴秀吉の三木城攻めで別所方に味方したため再び焼かれ、また現在の場所に再建された。

この延命寺の仏像は地藏菩薩の坐像である。地藏菩薩は、釈迦の入滅後、弥勒菩薩があらわれるまでの間、衆生を救うとされた。現在は年1回、地藏盆の8月24日に開帳される。

明石市魚住町金ヶ崎 延命寺 地藏菩薩坐像





像底

明石市魚住町延命寺 地蔵菩薩坐像 所見

調査日 令和6年(2024)6月4日

記録者 兵庫県立歴史博物館 ひょうご歴史研究室研究員 神戸佳文

- (1) 名称 木造地蔵菩薩坐像 1 軀
- (2) 種別 彫刻
- (3) 所在地 明石市魚住町金ヶ崎 898 番地
- (4) 所有者 延命寺 (浄土宗)
- (5) 像高 75.7cm
- (6) 時代 平安時代前期(9世紀)
- (7) 概要 一木造(内刳なし) 古色、彫眼

法量 (cm)

像高 75.7 (髮際高 65.3)

頂一顎 24.8 (面長 17.9) 面幅 14.9 耳張 17.6 面奥 17.8

胸奥(右)12.1 胸奥(左)20.9 腹奥 21.8 肘張 47.9 膝張 58.9

坐奥(膝まで) 41.7 坐奥(裳先まで)52.7

形状

右肘を曲げて錫杖しゃくじょうを持ち、左肘も曲げて掌の上に宝珠ほうじゆを載せる。左足を上にして結跏趺坐けっかふざし、左足先は衣で覆われている。頭部は円頂で僧形を示す地蔵菩薩坐像である。胸を張り、背を後ろへ反らすような姿で坐す。体部全体に暗褐色の古色が塗られている。

構造

丸太の一材を縦に半分に割り、木心を像の前にして、像を彫刻し、両腕の手首あたりまで、体部材と一材とする。内刳うちぐり(像の干割れを防ぐために像内を彫ること)はされていない。(なお木心は腹前を通っているが、後補材に置き換えられている)、像底の腰まわりは、底の朽損した部分を切り取り、高さ約8cmの材を左右と後ろの3材を補って修理している。脚部は、横一材を寄せており、底部は内刳される。裳先(後補)はさらに一材を寄せている。両手先(後補)は別材を袖口で寄せている。材は針葉樹と思われる。

後補の部分

額の水晶製の白毫びやくごう、両手先は中世頃の後補と思われる。右手の第4、5指先は江戸時代の後補、左手は宝珠の台座まで含んで一材からなり、第2、3指先は亡失する。頭部など

のひび割れは、乾漆(漆にオガクズなどを混ぜてペースト状にしたもの)で埋めている。腰部の修理は前述したとおりで、江戸時代に行われたと考えられる。

持物の錫杖、宝珠、銅製透かし彫りの胸飾(首飾り)と瓔珞、裳先、腰回りの三つの材、脚部との接合部の体部の右前と中央の材、光背、台座は江戸時代の後補と思われる。

保存状況

像の表面の一部にスレや古色のはがれがあるが、像本体の保存状況は良好である。

伝来について

- 1、延命寺本堂の須弥壇上の厨子に安置されている。制作仏師等は不明である。
- 2、現在の後補の大部分、台座、光背の新調は、江戸時代に施されたと考えられるが、台座の裏側には銘文は記されていない。

制作時期等について

面相は、森厳で精気に富み迫力がある。体部は胸部が盛り上がるように厚く造られ、衣文(衣の彫り)は深く、また翻波式衣文(太い衣文の間に先の鋭い衣を彫りだす)がみられる。これらの特徴は平安時代前期の特徴をよく示していることから平安時代前期(9世紀)に造立されたものと考えられる。

所見

上記の特徴、作風から平安時代前期(9世紀)の作と考えられ、腰回り等は江戸時代の後補であるが、全体に当初の姿をよく留め、保存状態も良好である。平安時代前期の仏像として市内最古であり、文化財的な価値は極めて高いと考えられる。

その他

像の撮影に際しては、持物の錫杖と胸飾をはずしている。

参考:市内の指定文化財の仏像

名称 ^{もくぞうしょうかんのんりゅうぞう}木造聖観音立像 1軀

像高 107センチ

時代 平安時代

兵庫県指定重要文化財(彫刻)

昭和59年(1984)年3月28日指定

明石市材木町 ^{ほうりんじ}宝林寺

宝林寺は宝永2年(1705)に^{ゆうしん}宥真和尚が^{かいき}開基した^{にん な じ まつじ}仁和寺の末寺である。昭和20年(1945)の戦災で主な建造物が焼失したが、^{ほんぞん}本尊の「木造聖観音立像」だけは防空壕に入れられており、焼失をまぬがれた。

本像は寄木造で右手は^{すいか}垂下、左手は^{くつび}屈臂して^{れんげ}蓮華をとる。体軀はわずかに腰を左にひねり、^{そうぼう ふくがん}相貌は伏眼で頬はふくよかである。衣文の刻線は修補が見られるが、流麗な衣文線は失われていない。左腕より先、右腕の中頃より先、両足先、両腕より垂れる^{てんい ようらく じぶつ}天衣、^{だいき こうはい}瓔珞、持物の蓮華、台座、光背などは後補である。



参考：市内の指定文化財の仏像

名称 薬師如来坐像 1軀

像高 83センチ

時代 平安時代

兵庫県指定重要文化財(彫刻)

平成14年(2002)4月9日指定

明石市太寺 高家寺

この薬師如来坐像は江戸時代に小笠原忠政によって再建された高家寺の本尊として祀られている。この高家寺のある場所には、飛鳥時代に建てられた太寺廃寺が存在した。本像は高さ83センチの寄木造で、穏やかで均整のとれた温雅な姿勢、浅く流麗な衣文など12世紀頃の様式を示しており、平安時代の最末期の作と評価されている。その姿勢は右手を屈臂し、五指を開いて立て、左手は左膝上におき薬壺をのせ、左足を前にして結跏趺坐する。相貌は温和でよく整っている。肩部はなだらかで、均整のとれた温雅な姿態である。浅く流麗な衣文が特徴である。





参考:市内の指定文化財の仏像

名称 ^{もくぞう}木造毘沙門天^{びしゃもんてん}及び^{りょうわきじぞう}両脇侍像 3軀

像高 毘沙門天像 171センチ 両脇侍像 75センチ

時代 室町時代

明石市指定有形文化財(彫刻)

昭和56年(1981)3月19日指定

明石市林 ^{ほうぞうじ}宝蔵寺

鎌倉時代の様式をとどめている室町時代初期の^{もくぞう}木造毘沙門天^{びしゃもんてん}及び^{りょうわきじぞう}両脇侍像で宝蔵寺の^{ほんぞん}本尊である。応永3年(1396)閏^{うるう}5月2日夜、藤原左近が明石沖より引き揚げたとの寺伝がある。毘沙門天は右手に戟^{げき}を持ち、左手は腰にあて、きびしく引き締まった^{そうぼう}相貌をもつ。^{きつしょうてん}脇侍は吉祥天と善膩師童子^{ぜんにしどうじ}を配する。



〔用語の説明〕

【仏像の姿勢】

立像（りつぞうともよぶ）、坐像、臥像に大別される。仏像が立っているか、座っているか、横になっているかで大別したもの。

屈臂…肘を曲げること。

垂下…垂れ下がること。

結跏趺坐…仏法の座法の一つ。あぐらをかき、右の足を左のものの上に、左の足を右のものの上に置き、足の甲でおさえて足の裏を上に向ける。

【仏像の種類】

如来…如来とは、修行をして悟りを開いた者で、仏陀、仏ともいう。仏教成立時には仏教の開祖・ゴータマシッダールタ、すなわち釈迦如来だけであった。釈迦入滅後に釈迦以外にも悟りを開いた如来が存在するという考え方が生じて、薬師如来、阿弥陀如来、大日如来などが考えられるようになった。

菩薩…菩薩は自らも悟り、さらに人々を救済するために修行するもの。菩薩の姿は古代インドの王族のみなりが基本となっており、宝冠をいただき、身を豪華な装身具で飾り立てるのが普通であるが、地藏菩薩のように頭を丸め袈裟をまとう僧侶の姿であらわされる場合もある。

明王…密教経典に初めて登場する。如来の真意をうけて悪を打破する者。憤怒の形相をとり、悪を打ちくだくための持物をとる。

天…仏教が成立する以前にインドで根強く信仰されていたバラモン教やヒンドゥー教の神々が仏教にとり入れられ仏法を守護する護法神化したもの。

【持物】

仏像の手に持っているもの。

錫杖…僧侶・修験者の持つ杖。

宝珠…たからとすべきたま。たからのたま。

蓮華…ハスの花。

やくこ
薬壺…薬の壺。薬師如来の持物。

げき
戟…中国古代に用いられた兵器。

【その他】

たっちゅう
塔頭…禅宗で大寺の高僧が死んだ後、その弟子が師徳を慕って塔の頭に構えた房舎。転じて、一山内の寺院。寺中。子院。わきでら。

にゅうめつ
入滅…滅度（涅槃）に入ること。釈尊の死、また広く僧侶の死をいう。

しゅじょう
衆生…一切の生物。一切の人類や動物。

ようらく
瓔珞…インドの貴族男女が珠玉や貴金属を編んで頭・首・胸にかけた装身具。また、仏像の装飾ともなった。

ちやうがん
彫眼…眼を彫り出してあらわしたもの。くり抜いた眼の裏側から水晶のレンズをはめる技法を玉眼という。

かいき
開基…物事のもとを開くこと。寺院または宗派を創立すること。また、その僧。開山。開祖。

まつじ
末寺…本山の支配下にある寺院。本寺に付属する寺。

ほんぞん
本尊…信仰・祈祷の対象として、寺院に安置する仏・菩薩。

えもん
衣文…装束の着方の法式。着物の襟を胸で合わせたところ。衣服のえりもと。

だいざ
台座…仏像を安置する台のこと。

こうはい
光背…仏像の背後つける光明をあらわすもの。

てんい
天衣…天人・天女の着る衣服。また、天の織女の着る衣装。あまのはごろも。

そうぼう
相貌…顔かたち。顔のありさま。

うるう
閏…季節と暦月を調整するため、平年より余分にもうけた暦日・暦月

(参考)

- ①東京藝術大学大学院美術研究科文化財保存学専攻保存修復彫刻研究室編・藪内佐斗司監修『古典彫刻技法大全』（株式会社求龍堂、2021年）
- ②『仏像のかたちと技法 仏像美術ハンドブック 1』（奈良国立博物館、昭和58年）
- ③『なら仏像館名品図録』（奈良国立博物館、令和4年）
- ④『広辞苑』第二版（岩波書店、昭和45年）

〔参考写真〕



◎	主として取組む	短期 3年
○	協力して取組む	中期 5年
△	一部を取組む	長期 10年

保存と活用に関する課題	保存・活用に関する基本方針	番号	保存と活用に関する措置													KPI(成果目標値)				
			事業名	事業内容	取組み主体					事業計画期間			財源	指標	目標値					
					市民	専門家	団体	文化財部局	行政(関連部局)	短期	中期	長期								
課題1 歴史文化遺産を「知る」取り組みに関する課題	<p>基本方針</p> <p>歴史文化遺産を「知る」取り組みに関する課題</p> <p>・都市化による開発の進行などによりまちを歩いていても歴史の蓄積を感じる事が難しい場所もあるため、子どもをはじめ市民がわがまちの歴史文化を身近に知ることにより、歴史文化遺産を継承する人づくりを進めるためのの方策の検討が必要とされる。</p> <p>歴史文化遺産を「知る」取り組みに関する課題</p> <p>・大蔵谷街道筋に残る神社や町屋の保存・活用を一層展開すると共に、重点地区の民俗文化財である布団太鼓や大蔵谷の獅子舞などの保存・公開の措置を進めることが必要である。</p> <p>・明石市立文化博物館から明石城東ノ丸跡に至る箱堀跡、薬研堀跡などを含む東側区域の樹林整備などの環境整備が求められる。</p> <p>・県史跡指定の太寺廃寺塔跡は本市の古代の歴史文化を現す歴史文化遺産であり、その価値を広く発信するためのの方策の検討が必要とされる。</p> <p>・鍛冶屋町周辺は、明石城下の商家として数少ない建築物が残されているが、放置することによって毀損が憂慮されるため、適切な保存の措置が必要である。</p>	全市的取り組みと共通																		
課題2 人材育成に関する課題		方針2 学校教育・生涯教育の場で歴史文化を担う人づくりを進める																		
		重1	重点区域に関する副読本の作成	市史編さん事業の進捗と併せて重点区域に特化した歴史文化を解説する副読本を作成し、学校教育における歴史文化遺産を担う次世代の人づくりを進める				◎	◎	■	■	■	■	■	■	■	■	国費・市費	副読本の作成	期間中作成
		重2	明石市立文化博物館における歴史文化に関する講座の開催	明石市立文化博物館の企画展示と併せ、市史編さん成果や重点区域の歴史文化に関する講座を継続的に開催し、市民が歴史文化の価値や魅力を知る機会を充実させ、歴史文化遺産の担い手育成につなげる						○		◎						国費・県費・市費	講座の開催	年1回
		重3	ボランティアガイド等と共に巡るまち歩きを開催	市民が重点区域の歴史の蓄積を感じることができるよう、ボランティアガイドや専門家と共に巡るまち歩きを継続的に開催する						◎	◎	○						県費・市費	まち歩きを開催	年1回
課題3 保存に関する課題		方針3 歴史文化遺産を確実に次世代に継承する																		
		重4	大蔵谷街道筋の建築物・民俗文化財の保存・公開	大蔵谷街道筋に残る伝統的な建築物や布団太鼓・獅子頭の保存・公開を進め、市民・行政と所有者との情報交換の場を構築する						○			◎	◎				国費・県費・市費	公開件数	期間中2件
		重5	明石城東ノ丸・薬研堀周辺の環境整備	明石市立文化博物館から明石城に至る箱堀など周辺の樹林整備や解説板の設置を進め、文化博物館と明石城とのアクセスを向上させる								○	◎					国費・県費		
		重6	VRを用いた太寺廃寺塔の復元	高家寺境内地に位置する太寺廃寺塔跡の価値を発信するため、VRなどを用いた塔の復元を検討する						○								国費・県費・市費		
		重7	城下に残る建造物の保存	鍛冶屋町など旧城下町に残る商家などの建造物について、詳細調査を実施した上で、指定・登録等の保存の措置を進める														国費・県費・市費		
課題4 活用に関する課題		方針4 歴史文化を活かした愛着のもてるまちづくりを推進する																		
		重8	まちの歴史を知る銘板・サイン等の設置	旧町名等を含めたまちの歴史を知る統一したデザインの銘板やサイン等を設置し、子どもたちをはじめ市民が歴史文化遺産や空襲被害を理解するための仕掛けづくりを進める								◎	◎					国費・市費	設置数	年3件
		重9	海からの史跡めぐり周遊ルートづくりの検討	周辺自治体と連携して、海から旧波門崎燈籠堂や台場跡などをめぐる周遊ルートづくりを検討し、新たな視点で歴史文化を活かしたまちづくりを推進する							○	○	◎					国費・県費・市費		
	重10	明石歴史文化クリエイティブ事業の支援	明石型生船資料の調査・研究など歴史文化遺産に関連する民間団体の活動や事業を「明石歴史文化クリエイティブ事業」と名付け、活動支援の枠組を構築する							○	◎	◎					国費・県費・市費			
	重11	中崎公会堂の活用の推進	近代都市明石の文化を象徴する中崎公会堂の修理・修復、保存・活用方策を検討の上、一層の活用を推進する						○	○	◎	◎	◎				国費・県費・市費			
	重12	織田家史料の展示・公開	織田家に残る貴重な歴史史料を把握・整理した上で、広く市民や来訪者に展示・公開する施設を整備する														国費・市費			
	重13	オンライン配信等による歴史文化の情報発信	明石市立文化博物館や明石市立天文科学館で実施する展示会等の手話付のオンライン配信なども含め、時のまち明石の歴史文化の情報発信を進める								◎	◎	◎				国費・市費	情報発信数	年1回	
課題5 体制づくりの課題	方針5 みんなで歴史文化のまちづくりを進める																			
	重14	明石市文化財保存活用協議会重点区域部会組織化	協議会に重点区域部会を設け、市民、文化財所有者、団体、専門家、行政が協働して歴史文化遺産の保存・活用のための体制を構築する						◎	◎	◎	◎	◎				市費	部会の開催	年1回	

2024年度の重点区域における予定

重1 重点区域に関する副読本の作成

作成したウォーキングマップを中学校の研修に配布予定

重2 明石市立文化博物館における歴史文化に関わる講座の開催

6月「東二見 横河家の功績—大坂の陣から近代建築まで—」

9月「明石藩の世界展Ⅻ—藩主忠国が創った『源氏物語』遺跡と俳諧文学—」

10月「発掘された明石の歴史展—明石の寺院跡—」

12月「明石の布団太鼓Ⅱ—彫刻と刺繍に見る匠の技—」

重3 ボランティアガイド等と共に巡るまち歩きを開催

文化財ウォークの実施(11月9日)

重4 大蔵谷街道筋の建築物・民俗文化財の保存・公開

稲爪神社太鼓の展示、穂蓼八幡神社布団太鼓の展示(12月14日～1月13日)

重8 まちの歴史を知る銘板・サイン等の設置

明石浦のおしゃたか舟、鰐口の看板設置

重10 明石歴史文化クリエイティブ事業の支援

空き家を活かした展示会、講座の開催、生船の調査

重11 中崎公会堂の活用の推進

文化財ウォークでの公開(11月9日)

重13 オンライン配信等による歴史文化の情報発信

明石市立文化博物館の企画展講演会を Youtube で配信

重14 明石市文化財保存活用協議会重点区域部会の組織化

重点区域部会の開催(9月10日)



中崎遊園地 ラヂオ塔



魚住城跡



光觸寺



高丘古窯跡群



太山寺道 道標



長楽寺



大蔵谷本陣・脇本陣



明石浦のおしゃたか舟



蔦の細道

第3回 あかし歴史のまち「文化財ウォーク」
～「近代化」と「時のまち」を物語る文化財を歩く～

「あかし文化芸術月間2024」の開催を記念し、歴史のまち「あかし」の魅力を多くの皆様に知っていただくため、あかし歴史のまち「文化財ウォーク」を実施します。

本市では、令和3年度に策定した「明石市文化財保存活用地域計画」のもと、歴史文化の証である文化財を大切に保存するとともに、市内外に広く「歴史のまちあかし」の魅力を発信し、まちの発展につながるよう、文化財のさらなる活用を進めています。

第3回目となる今回は、「近代化」と「時のまち」の歴史を物語る文化財を専門家やボランティアと一緒に巡り、身近に明石の魅力を体感できるコースです。

日 時：2024年（令和6年）11月9日（土） 9時30分～12時30分

主 催：明石市

行 程：9時30分集合 市立文化博物館集合

明石神社「明石城太鼓」

月照寺

子午線標示柱

柿本神社

天文科学館（日本標準時子午線関係資料など見学）

神明国道子午線標識

日本中央標準時子午線通過地標識

中崎公会堂（建物内を見学）

中崎遊園地ラヂオ塔（解散）

定 員：20名（小学生以上）

参加費：300円（資料代・保険料）

案内人：市歴史文化財担当職員ほか

協 力：ぶらり子午線観光ガイド連絡会 ヘリテージ明石 あかし市民図書館

明石市立天文科学館 明石観光協会

応募締め切り：10月18日（金）まで

応募方法：市ホームページの申込フォームまたは往復ハガキで申し込む。

必要事項：イベント名、参加者全員の氏名、ふりがな、年齢（学年）、郵便番号、住所、電話番号、当日の緊急連絡先、参加人数（1組4名まで）

※応募が多数の場合は抽選で参加者を決定します。

問い合わせ：明石市文化・スポーツ室歴史文化財担当

〒673-0846 明石市上ノ丸2丁目13-1

電 話 078-918-5629

メール rekishi-bunkazai@city.akashi.lg.jp

コース写真



①明石神社（明石城太鼓）



②月照寺



③子午線標示柱



④日本中央標準時子午線通過地標識



⑤中崎公会堂（外観）



⑥中崎遊園地ラヂオ塔

重点区域（黄色が本年度の文化財ウォークのコース案）

重1：重点区域に関する副読本の作成
市史編さん事業の進捗と併せて重点区域の歴史文化を解説する副読本を作成し、学校教育の場で歴史文化遺産を担う次世代の人づくりを進める

重5：明石城東ノ丸・薬研堀周辺の環境整備
明石市立文化博物館から明石城に至る箱堀など周辺の樹林整備や解説板の設置を進め、明石市立文化博物館と明石城とのアクセスを向上させる

重12：織田家史料の展示・公開
織田家に残る貴重な歴史史料を把握・整理した上で、広く市民や来訪者に展示・公開する施設を整備する

重7：城下に残る建造物の保存
旧城下町に残る安藤家や築（月）山の石畳、岬森神社の石碑などの建造物について、詳細調査を実施した上で、指定・登録等の保存の措置を進める

重9：海からの史跡めぐり周遊ルートづくりの検討
周辺自治体と連携して、海から旧波門崎燈籠堂や台場跡などをめぐる周遊ルートづくりを検討し、新たな視点で歴史文化を活かしたまちづくりを推進する



重2：明石市立文化博物館における歴史文化に関する展示や講座の開催
明石市立文化博物館の企画展示と併せ、市史編さん成果や重点区域の歴史文化に関わる講座を継続的に開催し、市民が歴史文化の価値や魅力を知る機会を充実させることによって、歴史文化遺産の担い手育成につなげる

重8：まちの歴史を知る銘板・サイン等の設置
旧町名等を含めたまちの歴史を知る統一したデザインの銘板やサイン等を設置し、子どもたちをはじめ市民が歴史文化遺産や空襲被害を理解するための仕掛けづくりを進める

重6：VRを用いた太寺廃寺塔の復元
高家寺境内地に位置する太寺廃寺塔跡の価値を発信するため、VRなどを用いた塔の復元を検討する

重13：オンライン配信等による歴史文化の情報発信
明石市立文化博物館や明石市立天文科学館で実施する展覧会等の手話付きのオンライン配信なども含め、時のまち明石の歴史文化の情報発信を進める

重4：大蔵谷街道筋の建築物・民俗文化財の保存・公開
大蔵谷街道筋に残る伝統的な建築物や布団太鼓・獅子頭の保存・公開を進め、市民・行政と所有者の情報交換の場を構築する

重11：中崎公会堂の活用推進
近代都市明石の文化を象徴する中崎公会堂の修理・修復、保存・活用方を検討の上、一層の活用を推進する

重10：明石歴史文化クリエイティブ事業の支援
明石型生船資料の調査・研究など歴史文化遺産に関連する民間団体の活動や事業を「明石歴史文化クリエイティブ事業」と名付け、活動支援の枠組を構築する

重14：明石市文化財保存活用協議会重点区域部会の組織化
協議会に重点区域部会を設け、市民、文化財所有者、団体、専門家、行政各課や図書館などが協働して歴史文化遺産の保存・活用のための体制を構築する



重3：ボランティアガイド等と共に巡るまち歩きを開催
市民が重点区域の歴史の蓄積を感じることができるよう、ボランティアガイドや専門家と共に巡るまち歩きを継続的に開催する

凡		例	
有形文化財	建造物	■	社寺等
	美術工芸品	■	住宅
民俗文化財	有形	■	石造物
	無形	◇	建造物・その他
記念物	遺跡	◇	美術工芸品
	動物、植物及び地質鉱物	★	有形
登録	有形文化財	▲	無形
	建造物	▲	記念物
		○	文化的景観
		○	歴史ゾーン

(国) 国指定 (国登) 国登録 (県) 県指定 (市) 市指定
 歴史ゾーン 明石市都市景観形成基本計画より

(4) 魚住文化財収蔵庫の展示公開について

第1回展示 2022年7月22日(金)～8月31日(水)

「明石西部の宝物」 来場者224名

高丘窯鴟尾、幣塚古墳埴輪、寺山古墳馬形埴輪、魚住古窯跡須恵器

第2回展示 2023年1月11日(水)～2月18日(土)

「清水の米づくりと祭礼」 来場者186名

唐箕、オクワハン衣装

第3回展示 2023年5月16日(火)～6月24日(土)

「明石の瓦」 来場者155名

林崎三本松窯瓦、報恩寺瓦、近・現代瓦、瓦造り道具

第4回展示 2023年7月20日(木)～9月2日(土)

「化石展」 来場者169名

アケボノゾウ、ナウマンゾウ、神戸層群植物化石、海外化石

第5回展示 2023年11月15日(水)～12月17日(日)

「昭和の道具－知恵と工夫－」 来場者68名

衣類、炊飯器、アイロン、ラジオ、テレビ

第6回展示 2024年2月15日(木)～3月24日(日)

「明石城下の武家のくらし」 来場者356名

調理具、暖房具、水道管、土人形、井戸

第7回展示 2024年5月18日(土)～6月30日(日)

「市指定文化財指定記念 赤根川金ヶ崎窯跡出土の須恵器」 来場者181名

寺山古墳石見型埴輪、赤根川金ヶ崎窯跡出土角杯形土器

第8回展示 2024年7月20日(土)～9月1日(日)

「蛸壺展」 来場者147名

飯蛸壺、真蛸壺、漁具、映像コーナー

第9回展示 2024年11月14日(木)～12月15日(日)

「埴輪展」

幣塚古墳出土埴輪、三番割古墳出土埴輪



焼塩壺・土瓶など
(明石城下の武家のくらし)



井戸
(明石城下の武家のくらし)



角杯形土器
(赤根川金ヶ崎窯跡出土の須恵器)



展示風景
(蛸壺展)



飯蛸壺
(蛸壺展)

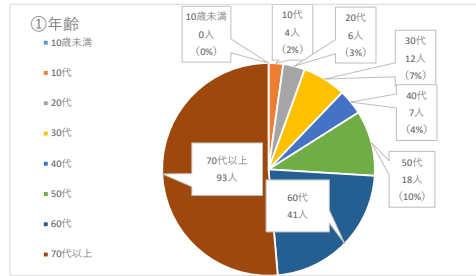


さわってみよう
のコーナー
(蛸壺展)

「市指定文化財指定記念 赤根川金ヶ崎窯跡出土の須恵器」 アンケート結果

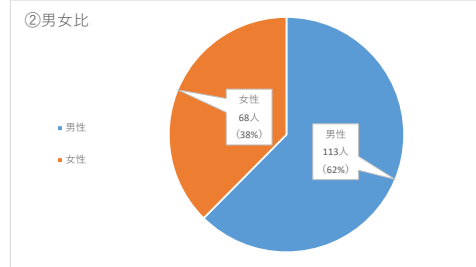
①年齢

10歳未満	0
10代	4
20代	6
30代	12
40代	7
50代	18
60代	41
70代以上	93



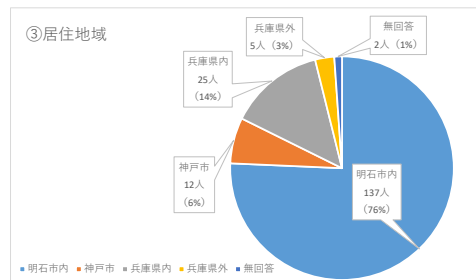
②男女比

男性	113
女性	68



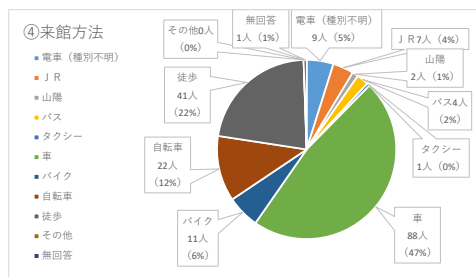
③居住地域

明石市内	137
神戸市	12
兵庫県内	25
兵庫県外	5
無回答	2



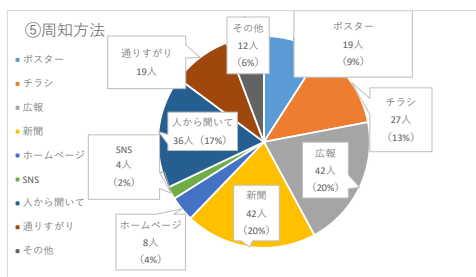
④来館方法

電車(種別不明)	9
JR	7
山陽	2
バス	4
タクシー	1
車	88
バイク	11
自転車	22
徒歩	41
その他	0
無回答	1



⑤周知方法

ポスター	19
チラシ	27
広報	42
新聞	42
テレビ	0
ラジオ	0
ホームページ	8
SNS	4
人から聞いて	36
通りすがり	19
その他	12
無回答	1

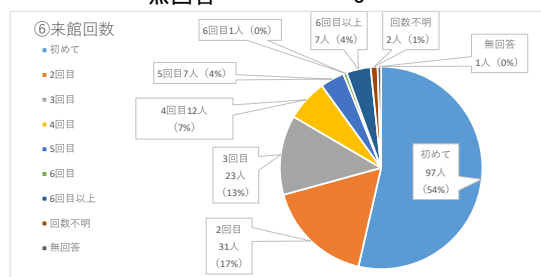
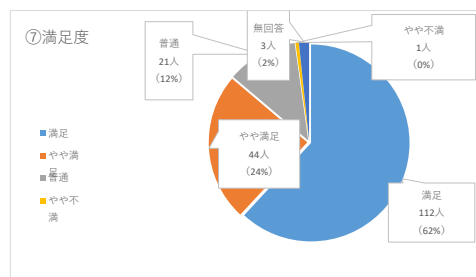


⑥来館回数

初めて	97
2回目	31
3回目	23
4回目	12
5回目	7
6回目	1
6回目以上	7
回数不明	2
無回答	1

⑦満足度

満足	112
やや満足	44
普通	21
やや不満	1
不満	0
無回答	3

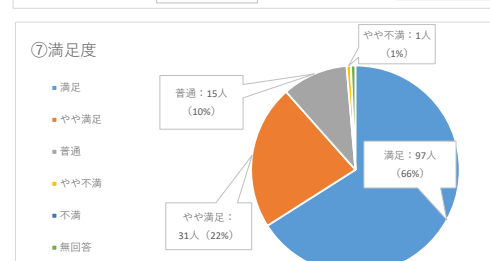
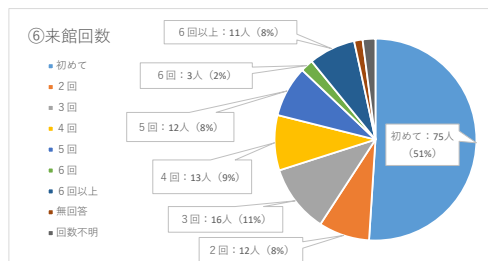
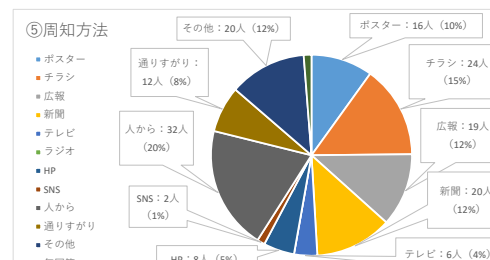
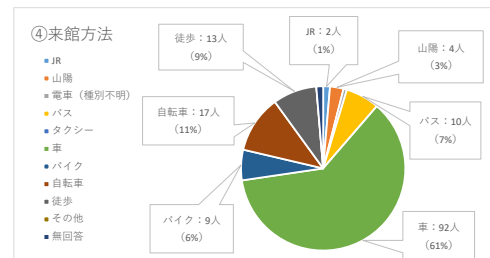
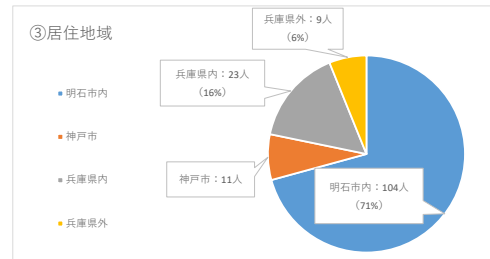
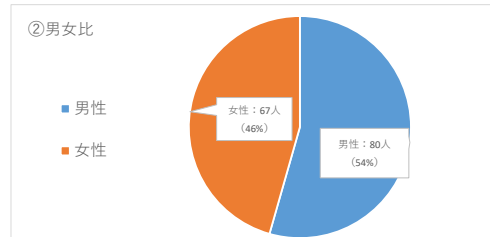
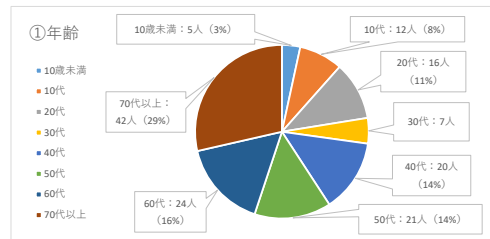


アンケートの感想(一部)

- ・本格的に展示されており、見やすく、解説も良かった。地図もあり、わかりやすかったです。
- ・身近な所でたくさんの歴史的な埴輪や土器等を目にすることができ感動しました。また来たいので楽しみにしています。
- ・産れ育った郷土の歴史、自分の住む地域の昔に想いをはせることが出来た。朝鮮半島とのつながりを改めて認識した。
- ・身近な地域で発掘された土器などを見ることが出来て、歴史を身近に感じる事が出来た。
- ・長年明石に住んでいて、身近な所に古墳がこんなに多くあることに驚き、出土品の多さが大変興味深かったため。

「蛸壺展」アンケート結果

①年齢	10歳未満	5
	10代	12
	20代	16
	30代	7
	40代	20
	50代	21
	60代	24
	70代以上	42
②男女比	男性	80
	女性	67
③居住地域	明石市内	104
	神戸市	11
	兵庫県内	23
	兵庫県外	9
④来館方法	JR	2
	山陽	4
	電車(種別不明)	1
	バス	10
	タクシー	0
	車	92
	バイク	9
	自転車	17
	徒歩	13
	その他	0
	無回答	2
⑤周知方法	ポスター	16
	チラシ	24
	広報	19
	新聞	20
	テレビ	6
	ラジオ	0
	HP	8
	SNS	2
	人から	32
	通りすがり	12
	その他	20
⑥来館回数	初めて	75
	2回	12
	3回	16
	4回	13
	5回	12
	6回	3
	6回以上	11
	無回答	2
⑦満足度	回数不明	3
	満足	97
	やや満足	33
	普通	15
	やや不満	1
	不満	0
	無回答	1



アンケートの感想(一部)

- ・時代の流れと地域ごとの展示がとても分かりやすかったです。実際に触ることもでき、貴重な体験ができました。
- ・生まれてからずっと明石に住んでいますが、こんなに遺跡があることや蛸壺に種類があることをちゃんと知らなかったからよい機会だった。
- ・弥生時代から現代に至るまでの各時代の蛸壺を特徴等の解説と合わせて見る事で、蛸壺の歴史の理解も深まった。
- ・現代にも相通ずる「蛸壺」の歴史を詳しく知ることができました。
- ・蛸の種類によって壺のサイズも形状も異なる事を学べた。展示品説明やキャプションなども分かりやすく面白かった。
- ・作業スペース？も見えたり、さわってみたりと、小さな施設なのに楽しく過ごせた。
- ・明石といえばたこのイメージだったので、たこについて詳しく知ることができ、地元についてより理解が深まった。
- ・実際の漁を再現している展示がわかり易く、たいへん興味深かった。時代毎、遺跡毎の展示がわかり易かった。
- ・はじめて来た魚住収蔵庫です。ご近所にこのような展示を楽しめる場所があったことにびっくりしました。
- ・釣がね型の壺が時期ごとに並べられており、時期ごとの形態の違いを比較しやすかった。また、蛸壺漁での紐と壺の結び方が、パネルと実物の2つからわかりやすかった。

明石市内指定・登録文化財一覧（69）

2024年9月1日現在

No.	種別1	種別2	名称	所在地	所有者	指定年月日
1	国	建造物	明石城翼櫓・坤櫓	明石公園1-27	兵庫県	昭32年 6月18日
2	国	書跡	後桜町天皇宸翰短籍	人丸町	柿本神社	明34年 8月 2日
3	国	書跡	仁孝天皇宸翰及一座短籍	人丸町	柿本神社	明34年 8月 2日
4	国	書跡	桜町天皇宸翰及一座短籍	人丸町	月照寺	明34年 8月 2日
5	国	史跡	明石城跡	明石公園	兵庫県	平16年 9月30日
6	県	建造物	石造燈籠	魚住町中尾	住吉神社	昭38年 8月24日
7	県	建造物	石造五輪塔	魚住町清水	西福寺	昭53年 3月17日
8	県	建造物	高家寺本堂	太寺2丁目	高家寺	平21年 3月13日
9	県	絵画	麻布著色孟蘭盆曼荼羅	鍛冶屋町	浜光明寺	昭59年 3月28日
10	県	絵画	神馬図絵馬	魚住町中尾	住吉神社	平22年 3月 5日
11	県	彫刻	木造聖観音立像	材木町	宝林寺	昭59年 3月28日
12	県	彫刻	薬師如来坐像	太寺2丁目	高家寺	平14年 4月 9日
13	県	考古資料	鴟尾と断片	上ノ丸2丁目	明石市	平 7年 3月28日
14	県	考古資料	藤江別所遺跡出土品	上ノ丸2丁目	明石市	平21年 3月13日
15	県	考古資料	報恩寺跡本堂基壇出土瓦	上ノ丸2丁目	明石市	平29年 3月14日
16	県	無形民俗	大蔵谷の獅子舞	大蔵本町	大蔵谷獅子舞保存会	昭54年 3月20日
17	県	史跡	高丘古窯跡群（5・6・7号窯）（8・9号窯）	大久保町高丘	明石市	昭50年 3月18日
18	県	史跡	太寺廃寺塔跡	太寺2	高家寺	昭53年 3月17日
19	市	建造物	播州明石浦柿本大夫祠堂碑	人丸町	柿本神社	昭48年 2月 2日
20	市	建造物	月照寺山門	人丸町	月照寺	昭45年 5月21日
21	市	建造物	織田家長屋門及付属塀	大明石町2丁目	織田家	昭45年 5月21日 平22年 3月11日
22	市	建造物	石造五輪塔「善楽寺の平清盛五輪塔」	大観町	善楽寺	昭52年 2月10日
23	市	建造物	住吉神社楼門	魚住町中尾	住吉神社	昭53年 3月11日
24	市	建造物	旧波門崎燈籠堂（石積）	港町	明石市	令 3年 1月20日
25	市	建造物	明石市立中崎公会堂	相生町	明石市	令 5年 3月27日
26	市	絵画	絵馬「加茂競馬の図」	魚住町中尾	住吉神社	昭47年 2月25日
27	市	絵画	絵馬「森狙仙筆猿の図」	人丸町	柿本神社	昭52年 2月10日
28	市	絵画	三十番神像	日富美町	本立寺	平30年 3月20日
29	市	彫刻	木造毘沙門天及び両脇侍像	林2丁目	宝蔵寺	昭56年 3月19日
30	市	彫刻	石造狛犬	人丸町	柿本神社	昭58年 3月31日
31	市	工芸品	光明寺の和鐘	鍛冶屋町	浜光明寺	昭48年 2月 2日
32	市	工芸品	明石城太鼓	上ノ丸1丁目	明石神社	昭49年 2月 8日
33	市	工芸品	明石城御殿平面図	上ノ丸2丁目	明石市	昭49年 2月 8日
34	市	工芸品	藤村覃定作「地球儀」	上ノ丸2丁目	明石市	昭49年 2月 8日
35	市	工芸品	鱈口	本町	柴屋町地藏講中	昭51年 2月 5日
36	市	工芸品	緋威金小札胴丸具足獅噛前立 烏帽子形張懸兜付	上ノ丸2丁目	明石市	平 7年 3月23日
37	市	工芸品	弁財船（イサバ）模型	二見町東二見	御厨神社	令 5年 3月27日
38	市	工芸品	稲爪神社太鼓	大蔵本町	稲爪神社	令 6年 3月27日
39	市	書跡	三十六歌仙絵及び和歌式紙	人丸町	月照寺	昭45年 5月21日
40	市	書跡	柿本人麿神位・神号に関する文芸資料等及明石藩関連資料	人丸町	月照寺	平22年 3月11日
41	市	書跡	冷泉為理柿本社奉納和歌	人丸町	柿本神社	令 2年 3月31日
42	市	古文書	明石藩主地子免許状	上ノ丸2丁目	明石市	昭47年 2月25日
43	市	考古資料	藤江別所遺跡井戸内出土品	上ノ丸2丁目	明石市	平19年 3月15日
44	市	考古資料	林崎三本松瓦窯跡群出土瓦	上ノ丸2丁目	明石市	平30年 3月20日
45	市	考古資料	寺山古墳石室及び出土品一括	魚住町錦が丘3他	明石市	平31年 3月20日
46	市	考古資料	赤根川金ケ崎窯跡出土角杯形土器等須恵器一括	上ノ丸2丁目	明石市	令 6年 3月27日
47	市	歴史資料	大和型船模型	魚住町中尾	住吉神社	昭55年 3月21日
48	市	歴史資料	子午儀	人丸町	明石市	昭58年 3月21日
49	市	歴史資料	日本標準時子午線関係資料	人丸町	明石市	平19年 3月15日
50	市	歴史資料	徳川家康感状等横河家伝来資料	上ノ丸2丁目	明石市	令 2年 3月31日
51	市	有形民俗	住吉神社の能舞台	魚住町中尾	住吉神社	昭51年 2月 5日
52	市	無形民俗	大蔵谷の囃口流し	大蔵本町	大蔵谷民俗芸能保存会	昭50年 2月 6日
53	市	無形民俗	大蔵谷の牛乗り	大蔵本町	大蔵谷民俗芸能保存会	昭50年 2月 6日
54	市	無形民俗	明石浦のおしゃたか舟	材木町	おしゃたか舟保存会	昭50年 2月 6日
55	市	無形民俗	藤江の的射	東藤江	的射行事保存会	昭50年 2月 6日
56	市	無形民俗	清水のオクワハン	魚住町清水	清水村民俗行事世話人	平 6年 1月27日
57	市	史跡	旧明石藩主松平家廟所	人丸町	長寿院	昭48年 2月 2日
58	市	史跡	横河重陳墓	二見町東二見	観音寺	昭48年 2月 2日
59	市	史跡	林崎掘割渠記碑	鳥羽	明石掘割土地改良組合	昭49年 2月 2日
60	市	史跡	カゲユ池古墳（1号墳）	藤江	明石市	昭51年 2月 5日
61	市	史跡	光明寺の明治天皇行在所跡	鍛冶屋町	浜光明寺	昭51年 2月 5日
62	市	史跡	幣塚古墳	魚住町清水	明石市	平19年 3月15日
63	市	天然記念物	瑞応寺のそてつ	二見町東二見	瑞応寺	昭47年 2月25日
64	国登録	建造物	岩佐家住宅主屋	鳥羽	岩佐家	平19年 7月31日
65	国登録	建造物	岩佐家住宅土蔵	鳥羽	岩佐家	平19年 7月31日
66	国登録	建造物	明石市立天文科学館	人丸町	明石市	平22年 9月10日
67	国登録	建造物	旧小久保跨線橋	小久保	明石市	平25年 3月29日
68	国登録	建造物	中崎ラヂオ塔	相生町	明石市	平25年 3月29日
69	県登録	建造物	茨木酒造	魚住町西岡	茨木酒造合名会社	平20年 8月 6日

『源氏物語』と明石

『源氏物語』は、平安時代の11世紀初め頃、紫式部によって書かれた全54帖からなる長編の物語。そのうち「明石」は第13帖。

都を離れて須磨で隠棲していた光源氏が明石へ移り、前の播磨守であった明石入道の屋敷「浜の館」に迎え入れられる。そこで、入道の娘明石の上との仲を取り持たれ、明石の上の住む「岡辺の館」へと通う。翌年、光源氏は都へ呼び戻されることにな

明石藩主松平忠国(藤井松平家)

藤井松平家の忠国は慶安2年(1649)丹波国篠山藩5万石から7万石の第5代明石藩主として入部し、万治2年(1659)に亡くなる。次男(長男は若くして死去)信之が跡を継ぎ、第6代明石藩主となる。延宝7年(1679)大和郡山藩8万石へ移る。

松平忠国が『源氏物語』を現実の地に見立てた文学遺跡は次の2カ所。

- ・明石入道の屋敷で光源氏が住んだ「**浜の館**」(①)を善楽寺や無量光寺の周辺に想定した。(前ページ)
- ・明石の上の住まいである「**岡(辺)の館**」(②)を現在の神戸市西区榎谷町松本に想定した。

それぞれに、忠国が自ら詠んだ歌を刻んだ石碑が建てられている。

また、『平家物語』に因む遺跡地「**忠度塚**」にも同様の石碑を建てている。

このような忠国による文学遺跡の見立てが、物語の流行とともに、広まり、『源氏物語』ゆかりや伝説の地が多く生み出され、現在に伝えられている。



『源氏物語』文学遺跡と伝説の地
①:浜の館 ②:岡の館 ③:恋の橋

り、懐妊していた明石の上には都へ迎えることを約束し、明石を後にする。

源氏物語の中では明石の様子が細かく描写されていて、読み手を明石へと誘う。文学に関心が強かった明石藩主松平忠国は自らの領国である現実の明石の地に『源氏物語』の世界を当てはめ、領内に物語を広めるとともに、往来する人たちに文学遺跡を通して明石の地を広く知らしめた。

『源氏物語』ゆかり・伝説の場所

「**蔦の細道**」無量光寺の東、堀沿いの道。光源氏が明石の上の住む「岡(辺)の館」へ通った。大正10年頃に造られた伊藤明瑞の筆による碑がある。

「**源氏稲荷**」無量光寺境内。光源氏が自ら信仰する神を祀った。

「**光源氏月見の松**」無量光寺と岩屋神社南西の2カ所に伝わる。岩屋神社には現在、境内に月見の松に見立てた松がある。(前ページ)

「**源氏月見寺**」無量光寺。

「**光源氏月見池**」朝顔光明寺(鍛冶屋町)境内の池。

「**恋の橋**」神戸市西区玉津町高津橋
光源氏が「岡の館」を訪ねての帰り道、明石の上のことを恋しく想い渡った橋。

「**源氏岡越の松**」神戸市西区榎谷町 光源氏が「岡の館」へ通った道にある松。



「岡之屋形碑」(②)



「蔦の細道」



「忠度塚」

あかし歴史のまち 「文化財ウォーク」

明石浦の港周辺と 『源氏物語』ゆかりの 文化財を歩く



明石浦漁港

明石の町の基礎となった城下町。その城下町の西南部には多くの寺院があり、その中には『源氏物語』の舞台とされるところもあります。明石の港近くの文化財を訪ねてみましょう。



明石市道路元標



旧船町古民家



伊弉册神社



無量光寺

モデルコース

●明石駅

徒歩5分

●明石市道路元標

徒歩15分

●旧船町古民家

徒歩5分

●岩屋神社

徒歩5分

●築山

徒歩5分

(つきやま)

●稲荷大明神

徒歩5分

●明石浦漁業協同組合

徒歩10分

●伊弉册神社

徒歩5分

●無量光寺

徒歩すぐ

(源氏物語・蔦の細道)

●善楽寺

(平清盛供養塔・川珠院庭園)

協力/ぶらり子午線観光ガイド連絡会
ヘリテージ明石
生船研究会
あかし市民図書館



明石の町の基礎「城下町」

元和3年(1617年)、徳川幕府2代将軍秀忠の命により小笠原忠政(のち忠貞)が明石へ入封し「明石藩」が誕生した。大坂夏の陣(1615年)により豊臣家は滅亡したが、徳川幕府にとっては旧豊臣方であった西国大名たちは大きな脅威であり、彼らに対する監視の役目として徳川家康ゆかりの重臣である本多家を姫路に配し、その後衛の明石に小笠原家を配置した。

小笠原忠政は、当初、明石川西岸の船土城に入ったが、翌年、新城の築城を命じられ、姫路藩主本多忠政と共に候補地を「人丸山」と定め、将軍秀忠の許可を得た。幕府より費用の援助と築城奉行が派遣され、城の主要部分である「本丸」「二ノ丸」「三ノ丸」の石垣・堀は幕府によって築かれた。屋敷などの建築や外堀・城下町・街道・港の整備は小笠原忠政が行った。

1 明石市道路元標 ※表紙に写真

道路の起点・終点や経過点を示していた標石。自動車移動手段の主役になり始めた大正9年(1920)に「道路法施行令」が制定され、各市町村に一基、主要道路の交差点に設置された。明石市では旧西国街道と駅前通りとの交差点に設置されたが、その後、国道整備に伴う2度の移設を経て、100年前の最初の設置場所近くに戻った。交通路の変遷や町の発展過程を伝える歴史遺産である。

2 旧船町古民家 ※表紙に写真

大正11年(1922)建築。母屋と蔵から成る。ラジオ部品などを製造販売する東洋電気具製作所(のち、東洋ライトに社名変更)を設立した平野英吉の住宅。屋敷地は20間(36.4m)×6間(10.9m)で約120坪(396.6㎡)。風通しや日光を取り入れるため、ガラス窓やガラス天井を使い工夫されている。

3 岩屋神社

平安時代に編纂された「延喜式神名帳」に載る古社。境内に「光源氏月見の松」に因んだ松が植えられている。



4 築山

江戸時代初めの城下町建設時に港を掘削した際に生じた土を積み上げた場所。周囲よりも高台になり、景色が良く、月見に適していた。江戸時代中頃の絵図には「月見山」とあり、明治36年(1903)の「明石名勝旧跡案内図絵」には「月山」と記されている。



5 稲荷大明神(岬森神社)

社殿右の石碑に、大正10年(1921)の神社再建時に寄附をした人たちの名が刻まれている。その中に香川県観音寺市伊吹島の漁業者11人の名があり、明石と伊吹島との間で深い交流があったことを伝えている。



6 伊弉册神社 ※表紙に写真

祭神の伊弉册尊は「古事記」「日本書紀」に記される国生みの男女二神のうちの女神。奈良時代の終わり、宝亀2年(771)に境内地が寄進されたが、後に度々火災にあい、現在の社殿は昭和37年(1962)に再建されたもの。

7 無量光寺 ※表紙に写真

浄土宗。山号は月浦山。慶長18年(1613)に中興され、正保年間(1644~48)に江井ヶ島から移ってきたといわれる。移転直後の寺であったが、藩主松平忠国(在位:1649~59年)により『源氏物語』に登場する光源氏の屋敷や月見の寺に見立てられた。寺内の稲荷社には「源氏稲荷」、土堀脇の道には「蕪の細道」と名付けた。

また、境内には、允恭天皇14年(425)に神に供える真珠を得るため深い海底の大砲を獲って絶命し、『万葉集』にも詠まれる伝説の海士男狭磯(アマノオサシ)を祀る塚が近年再建された。

8 善楽寺

天台宗。戒光院と円珠院の総称。大化年間(645~50)、法道仙人により開かれたと伝わる。元永2年(1119)に焼けたが、平清盛が保元元年(1156)に再建した。養和元年(1181)に清盛が亡くなると、その供養のために五輪塔が建立された。

また、『源氏物語』に登場する明石入道の館跡とされ、藩主松平忠国が詠んだ歌を刻んだ「明石入道の碑」が建てられている。「明石之浦之浜之松」の碑があり、ゆかりの松が植え継がれている。

善楽寺の内、東部に位置する円珠院は、庭園で知られている。明石の城下町建設時に町割を行い、城内の庭園を造った宮本武蔵の作と伝えられている。大・小の瀧、瓢箪形の枯池とそのくびれ部に架かる石橋が特徴。



平清盛供養塔



明石入道の碑



円珠院庭園

源氏物語×明石2024

秋冬

源氏物語ゆかりの地をとき明かす



あかし きみ ひろげんじ
明石の君と光源氏

源氏

明石はよきところなり



各イベントへのお問い合わせは



- 天文学館プラネタリウム (TEL078-919-5000 FAX078-919-6000)
- 文化博物館企画展 (TEL078-918-5400 FAX078-918-5409)
- 源氏物語ゆかりの地明石を感じるコーナー シティセールス課 (TEL078-918-5263 FAX078-918-5136)
- 明石 de 月見の宴 明石文化国際創生財団 (TEL078-918-5085 FAX078-918-5121)
- あかし市民図書館 (TEL078-918-5800 FAX078-913-6071)
- あかし源氏物語ダンシングレビュー 明石文化国際創生財団 (TEL078-918-5085 FAX078-918-5121)
- 明石散策 MAP～源氏物語を訪ねるコース～ あかし案内所 (TEL・FAX078-911-2660)

イラスト/そやままい ※掲載のイラストはイメージです

企画 あかし源氏物語プロジェクト

明石市

ようこそ源氏物語の世界へ ゆほびかな明石を感じてみませんか

源氏物語って？

平安時代に紫式部によって書かれた、長編小説です。明石は「ゆほびか」で、明るく美しい土地として紹介されています。

明石～あらすじ～

「源氏物語」は54巻からなり、明石は13巻目に「明石」として登場します。都を逃れ、須磨に身を隠していた光源氏は、明石入道の誘いで明石の地を訪れます。光源氏は、明石入道の娘「明石の君」に手紙を送るようになりました。2年の歳月が経ち、光源氏は都に戻ることになりますが、明石の君には新たな命が宿っていました。



明石を源氏物語 ゆかりの地にした人物！

第五代 明石藩主

松平忠国公

350年以上前の江戸時代の明石藩主。文学が好きで、「源氏物語」に登場する明石の様子を城下にある実際のお寺などにあてはめ、そこに和歌をきざんだ碑を建てた。それらが今も明石に「源氏物語ゆかりの遺跡」として残っている。

ここに碑を建てよう！



天文科学館プラネタリウム 「源氏物語と月」

中秋の名月や物語で描かれている明石の月を紹介します。
期間／9月1日（日）～29日（日）
場所／明石市立天文科学館
9月の休館日／2日、9日、10日、17日、24日、30日



文化博物館企画展 『源氏物語』遺跡と俳諧文学

源氏物語ゆかりの地を明石につくった第五代明石藩主、松平忠国の関連資料や明石の俳人たちの作品を紹介。
期間／9月14日（土）～10月14日（月・祝）
場所／明石市立文化博物館
講演会や講座も開催（要申し込み）



関連展示

「明石の君」パネル展示 ～再現装束とあさきゆめみし～

明石の君の装束を再現した衣装のパネル展示や大和和紀氏による『あさきゆめみし』の明石の君に関連するイラストを展示。



源氏物語ゆかりの地明石を 感じるコーナー（パピオスあかし）

4コマ漫画や学習パネルの展示、記念撮影コーナー（顔出しパネル）を設置しています。
開設日／9月1日（日）～
場所／パピオスあかし5階マルチ展示スペース



源氏物語ゆかりの地 明石

記念撮影ができるよ！

明石 de 月見の宴 （岩屋神社）



源氏物語をコンセプトにした仮装コンテストと音楽、ダンス、ヘアメイクなどさまざまなジャンルのアーティストによるパフォーマンス。
日時／9月14日（土）16時30分～
場所／岩屋神社（材木町8-10）、無料



あかし源氏物語 ダンシングレビュー

「明石城まつり」で源氏物語の世界を表現した創作ダンスを披露します。

日時／10月13日（日）

①10時30分～、②12時～（各30分程度）

場所／①明石公園本丸御殿ステージ

②明石市立文化博物館



あかし市民図書館 特設コーナー

松平忠国に関する書籍や資料を集めた特設コーナーを設置。

期間／9月18日（水）～10月14日（月・祝）



忠国くんしおりを9/1から配布詳しくはこちら

源氏物語ゆかりの場所

善楽寺（大観町）



光源氏を須磨から明石へ導いた明石入道の住まい「浜の館」の跡とされています。境内には「明石入道の碑」や「明石之浦之浜之松」があります。

無量光寺（大観町）



光源氏が月見をした場所といわれています。山門前に「鳶の細道」と呼ばれる小径があり、源氏が明石の君の住む館に通った道に見立てられています。

鳶の細道（大観町）



岩屋神社（材木町）



「光源氏月見の松」が境内にあります

ゆかりの場所マップ



明石散策 MAP～源氏物語を訪ねるコース～も配布中！詳しくは、あかし案内所へ。

GO! GO! 忠国くん!!

